

# 小型で高精度な放射線量測定器を開発

日本電波工業

## 企業ファイル

日本電波工業はこのほど、持ち運びができる高精度な放射線量測定器「RDS20A」Ⅱ写真Ⅱを開発した。

東日本大震災直後の福島第1原子力発電所の事故以降、国内では海外製の放射線量測定器が用いられているが、その計測値の信頼性については問題視されていた。RDS20Aはガイガーミュラー計数管式の放射線量測定器で、通常のガイガーミュラー計数管式の測定器はベータ線とガンマ線の両方を検出してしまったため、福島原発事故以降に問題視されているセシウム134、セシウム137などから出るガンマ線の空間線量率の計測では、信ぴょう性に欠ける面も指摘されていた。

この測定器は、そうした社会的な要請に対応することを目的に開発されたもので、ベータ線を遮蔽しガンマ線のみを計測できるように設計されたガイガーミュラー計数管を採用した。また、この測定器のガイガーミュラー計

数管や計数回路などを一貫して自社で設計・開発し国内で製造することで小型化と低価格（定価・税込み2万1600円）を実現した。小型ながら0.01マイクロシーベルト単位での計測が可能という。

さらに、1時間ごとの積算線量値を端末内部にデータとして保存することができ、専用ソフトウェアを用いてパソコンで日常生活における空間線量の履歴を確認することなども可能となった。

